

2017/11/26

「人にとって確実なもの」

■移り変わる世の中で確実なこと

今、この世の中は、目覚ましい勢いで移り変わっています。この変化の中で、私たちにとって確実なこと、真実なものとは、いったい何でしょうか。それは、次の3つのことに集約されます。

1. 誰もが愛を求めている

人は、愛されたいという欲求のほかに、愛したいという欲求も持っています。人が愛を求めるのは、愛を知っているからです。知らないものを求めることはできません。「人は愛を知っている」、これが確実なことのひとつです。

2. 誰もが自由を求めている

「自由」は「向上心」とも言い換えられます。人は、自分に何ができるか、自分の可能性を追求し、伸ばそうとしています。つまり、自分の可能性を広げて、もっと自由になろうとしているのです。それは、自由を知っているからです。

3. 誰もが最高の関わりを求めている

最高の関わりとは、「幸福」「幸せ」をもたらす関わりです。人が最高の関わりを求めるのは、最高の関わりを知っていたということです。

聖書は、次のように語ります。

「愛する者たち。私たちは、互いに愛し合いましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。」(Iヨハネ 4:7-8)

すべての人は、愛と自由と関わりを求めています。愛を求めるとは、神を求めているということです。私たちの魂は神を知っており、神を求めているのです。

「主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります。」(IIコリント 3:17)

すべての人が自由を求めるのは、神が自由な方だからです。私たちは、自由を求めることで、神を求めているのです。神の定義の一つに、「無制約」すなわち、「自由」というものがあります。制約された世界にいる私たちが、自由を求めるのは、神を知っているからです。

「今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、その時には顔と顔を合わせて見ることとなります。今、私は一部分しか知りませんが、その時には、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知るようになります。」（I コリント 13:12）

私たちの魂は、神様との関わりを知っています。だから、最高の関わりを求めるのです。聖書はこのことを、「神にとらえられている」という言い方をします。「神に完全に知られている」とは、神にとらえられていて、すでにその関わりの中にあるということなのです。制約された世界に生きている私たちは、今はそれがぼんやりとしかわかりません。神との関わりを知っていた魂は、もう一度、それがどんなものなのか知りたい、これが最高の関わりを求める理由です。

■誰もが神を求めている

誰もが神を求めている、これ以外に確実なことはありません。私たちが神を求めるのは、私たちのいのちが、神のいのちによって造られたものだからです。つまり、私たちの土台は神様です。私たちは、キリストにつながる枝であり、キリストの一部であると聖書は繰り返し教えています。

「鹿が谷川の流れを慕いあえぐように、神よ。私のたましいはあなたを慕いあえぎます。私のたましいは、神を、生ける神を求めて渴いています。」（詩篇 42:1-2）

これが、私たちの現実です。私たちの魂は、神のいのちの一部であったゆえに、神を知り、神を慕い求めているのです。しかし、今、私たちが暮らしている世界では、神を見ることができません。それは、アダムとエバが悪魔によって罪を犯して以来、人は神との結びつきを失ってしまったからです。これを死の世界と言います。私たちのいのちは、神のいのちで造られているのですが、無限なる神との結びつきを失い、この世界が有限となってしまったため、神はこの世界に住むことはできず、神との結びつきが阻害された状態にあります。

しかし、生きる世界が有限になろうと、神の見えない世界になろうとも、私たちの魂が変わったわけではありません。魂は、以前と変わらず、神を求め続けています。これが、どんな状況にあっても、私たちにとって確実な唯一のことです。

■神に引き上げられる

神を見ることのできない有限の世界において神を求めると、愛と可能性と最高の関わりを求めることとなります。それぞれが自分の可能性を追求し、お金、名誉、芸術等、自分にとって最高の関わりを求め、人の愛を求め、見える世界において自分の神を見つけようとしているのです。つまり、偶像礼拝です。しかし、神との結びつきを失っている状態ですから、私たちが神に代わるものを求めてしまうのは、やむを得ないことです。

私たちの魂は、神を知らずに神を求めています。ですから、本当に求めているものが何な

のかは、わかっていないわけです。自由を求め、愛を求め、可能性を求め、関わりを求めていることはわかるけれども、それはいったい何なのかがわからないのです。生まれながらに神を知らない私たちは、進む方向がぼんやりとわかっただけでも、結局、自分が何のために生きているのかがわからないため、どんなに自分の神を作っても、必ず絶望がやってきます。

恋に最高の関わりを求めても、自由を求め、名誉を求め、それを手にしたと思っても、それはやがて必ず絶望に変わります。なぜなら、それらは、魂が知っているものとは違うからです。健康を手に入れても、魂が、私の知っている健康はこれではないと叫ぶため、結局不安から逃れることはできません。絶望しても、生きていくためには、人は新たな可能性を探します。こうして人は立ち止まることもできず、一生泳ぎ続けていくことになるのです。魂が満足することはないからです。

どんなに神を求めても、神は無限の世界に住んでおられるので、有限の世界から神に近づくことは不可能です。唯一私たちの魂が神に近づける方法は、神に引き上げてもらうことです。無限の世界は有限の世界を飲み込み、神が引き上げてくださるならば、私たちは神の方向に進むことができます。

神様は、いつも私たちの魂に呼びかけています。私たちは意識することはできませんが、神のいのちで造られている魂だけは神の声を聞くことができます。私たちが、むなしさや絶望を感じるのは、私につかまりなさいと神が呼びかけているからです。まことに絶望する時、私たちは神の声を聞くことができます。こうして、神様助けてくださいと魂が叫ぶ時、神に引き上げられるのです。これが救いです。その救いを自覚した人がクリスチャンです。救われても、自覚に至るまで、つまり、イエス様を信じられるようになるまでに、相当時間がかかる人もいます。

また、神様に引き上げられても、この世界に暮らしている限り、私たちは偶像礼拝をしてしまいます。そのことを認識して生きるかどうかで、大きな違いが生じます。神に引き上げられたことを知り、神の方向に進むことを決めるなら、人生に逆転が起こります。

■人生が逆転する

神様に引き上げられると、私たちは神のことばを食べて生きていくことができるようになります。すると、ますます魂が神に引き上げられ、人生のすべてが逆転し始めます。

1. 罪人が受け入れられ、義人が締め出される

自分が救われたことがわかると、罪人が受け入れられて、義人が締め出されることに気づくようになります。自分が救われたことを知るとは、自分は罪人であったのに、受け入れられたことがわかるということです。神は、罪人は受け入れますが、自分を正しいとする人は救いから締め出されてしまいます。

『わたしはあわれみは好むが、いけにえは好まない。』とはどういう意味か、行って学んで来なさい。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。』

(マタイ 9:13)

もし、自分は義人で正しい人間だというなら、神はあなたを招く必要はありません。罪人なら来なさいと言っておられます。

私たちは、誰もが自分は罪人だとわかっていて、誰もが罪責感の中で苦しんでいます。しかし、地上にはこの罪責感を解決する方法はありません。神様は、正しい人ではなく、罪人を招いておられます。私たちが神を求め、神に近づけば近づくほど、これまでの価値観は逆転してしまいます。

2. 低い者が高くされる

この世は、他人の能力や障害を見て役に立たない者だとレッテルを貼り、比較によって自分の地位を高くしようとします。しかし、神様の価値観においては、低い者が高くされ、高い者が低くされるのです。

「だれでも、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされます。」

(マタイ 23:12)

イエス様は幼子を大切にし、小さい者こそ、素晴らしいと語りました。幼子に対する当時の認識は、何もできないだめな者の象徴です。しかし、神の見方では、この世界でだめだと言われてきた者が高くされるのです。

3. 患難が希望に変わる

この有限の世界では、様々な患難や悲しみがあります。しかし、神の見方をしていくと、それが逆転して、希望になると教えます。

「そればかりではなく、患難さえも喜んでいきます。それは、患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。」

(ローマ 5:3-4)

なぜ患難を喜ぶことができるのか、それは、患難は希望に変わることを知っているからです。患難を喜ぶことは、この世と逆転しています。神に引き上げられることによって、ものの見方、価値観がひっくり返ってしまうのです。

■軌道修正

私たちの魂が本当に求めていたものは神だったのだと知り、軌道修正して、神の国と義を求めていたのだと気づく時、私たちは偶像礼拝をやめることができるようになります。神とつながったのだから神の言葉を食べると決心し、神の国と義を第一にして、神の言葉を第一にするなら、ますます神に引き上げられ、真の関わり、本当の自由を手にすることができます。

朽ちる体を持つ私たちは、どんなに可能性を求めても、死の恐怖から逃れることはできませんでした。しかし、神に引き上げられるなら、永遠のいのちを得た平安と、自由を手にすることができるようになります。そして私たちが心の底で求め続けてきた最高の関わりを、私たちを無条件で愛し受け入れてくださる神様と築くことができるようになるのです。神様との関わりを知ると、これこそ自分が本当に求めていた関わりだと気づくでしょう。こうして、真の愛を知るようになるのです。

神という方向に軌道修正し、自分が求めていたのは神だと気づき、神のことばを食べ始めるなら、すべてが逆転し、患難は希望に変わります。もし、あなたの人生が、いまだにつらいものであり、患難の中にあるとするなら、軌道修正するしかありません。すると、罪人が受け入れられ、義人が締め出され、低い者が高くされ、患難が希望に変わると気づいて、価値観は一変していきます。

鋼鉄王と呼ばれた実業家、アンドリュー・カーネギーは、晩年クリスチャンとなり、人生を一変させました。富と名誉を求めてきた彼は、そんなところには何の平安もなく、自分が本当に求めてきたものはこれではないと気づき、神に軌道修正した結果、何が価値あることで素晴らしいことなのかに価値観が変わり、福祉・社会事業に全財産を使うようになりました。盲目のろうあ者として生まれたヘレン・ケラーは、幼いころは手が付けられない子どもでしたが、キリストの愛に出会い、変わりました。自分が求めていたのはこの方だと気づき、自分はだめな人間だという思いは逆転して、苦しみは喜びに変わり、人々に幸せを届ける人となりました。やくざから牧師になった鈴木啓之牧師もそうです。

すべての人の魂は神を求めています。ですから、人生は、神に出会い、近づくことで逆転します。人がこの地上で求めているものは、自分が本当に求めているものではありません。本当に求めているのは神です。この世において確実なこと、それは、人は神を欲しているということです。

私たちの魂は、すでに神にとらえられて、神に向かっています。だから、本物の神に心をむけない限り、人生は何も変わらず、絶望の連続です。本物でない限り、魂は満たされません。その絶望を何かで補おうとして、マグロのように一生泳ぎ続け、疲れ果てる人生ではなく、神に軌道修正して、あなたの人生を逆転させましょう。この世界で確実なこと、それは、あなたは神を求めているということです。